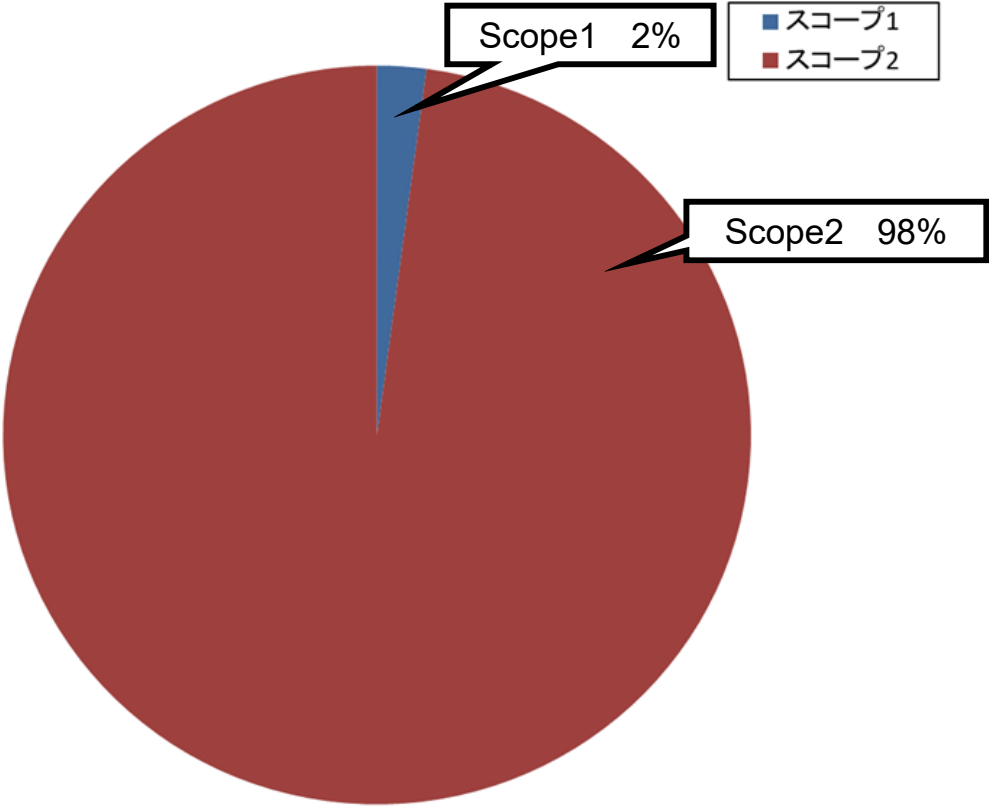


# 株式会社ゲットイット

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"><li>● 業種：情報・通信業</li><li>● 事業概要：ITハードウェアのサービス提供（販売・買取・保守・修理・レンタル・データ消去等）、家庭用品輸入事業</li><li>● 事業規模[任意]：85名（障がい者1名（重度障がい1名）、60歳以上の高齢者3名）（2020/09/30時点）</li></ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; 目標 2020年に2019年比で100%削減 取り組み:再エネ由来J-クレジットを使用</p> <p>&lt;Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; Scope3カテゴリ5: 廃棄物の内訳を把握し、適切な処理をする</p>

# 株式会社ゲットイット

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ	● Scope 1・2・3の排出量の状況	● SCOPE1 : 2.1 [tCO2]						
	<p style="text-align: center;">スコープ/カテゴリ別排出割合</p>  <table border="1"><caption>スコープ/カテゴリ別排出割合</caption><thead><tr><th>スコープ</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>スコープ1</td><td>2%</td></tr><tr><td>スコープ2</td><td>98%</td></tr></tbody></table>	スコープ	割合	スコープ1	2%	スコープ2	98%	● SCOPE2 : 94.5[tCO2]
		スコープ	割合					
スコープ1	2%							
スコープ2	98%							
	● SCOPE3 : [tCO2] (任意) ※2018年度はSCOPE3算定なし							

# 株式会社ゲットイット

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"><li>● アメリカのパリ協定復帰など、世界的に気候変動対策は加速すると考えている。顧客にはグローバルに展開している会社もいるので、サプライヤーに対しても、温暖化対策をしている企業と取引する動きになった際、優先的に取引ができる。</li></ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"><li>● 持続可能な社会発展へ向けた「SDGs」への関心の高まりを受け</li><li>● 「使えるものは、長く使おう」「使い終わったものは、次に繋げよう」の2点を掲げビジネスを進めている。IT社会に不可欠な情報機器について自社利用は原則中古機械に限定し、リユース製品をベースとしたIT社会のあり方を模索している。</li><li>● ESG投資を進めている企業へのビジネスチャンスを拡大することを期待</li></ul>

# 株式会社ゲットイット

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"><li>● 事業活動によるScope1,2CO2排出は非再エネ電力であることが判り、目標設定初年度から100%カーボンオフセットすることを決めた。今後は維持は勿論のこと、内容のブラッシュアップを進め、自社で脱炭素経営に取り組めるように努める。</li></ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● Scope2の削減において、テナントの関係でJ-クレジットでしかカーボンオフセットを実現する選択肢がない。</li><li>● Scope3のカテゴリ5を、外部業者への依頼に任せているので、明細が不明。外部業者の変更を検討している。</li></ul>